

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	402
担 当 教 員	専任教員	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>対人援助職のコミュニケーションに関する基本学習をする。医療倫理を基にした具体的な事例を通して実践技術の習得をグループワークを通して図る。医療職:①対象者、医療職対:②対象者の家族、医療職:③ケアチームという関係だけでなく、①②③の間の関係調整やコーディネータ的な役割を担う場合がある。その点についても事例で考えを深めていく。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> 必要な資料は授業中に配布する。 						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習は前回の授業の内容確認、事後学習は今回の授業の復習。 						
《履修に当たっての留意点》						
<p>コミュニケーションを学ぶ際の最終目標は、「わかる」ことだけでなく、「できる」ことにあります。知識の習得と合わせて、現場での実践力を身につけましょう。演習やグループワークを通して、具体的な実践場面で使えるコミュニケーション能力を高めていきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】シラバスを読む。(20分) 【事後学習】対人援助におけるコミュニケーションについて復習。(40分)	
		各コマに おける 授業予定	対人援助におけるコミュニケーションについて考える。			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】対人援助におけるコミュニケーションの役割について復習。(40分)	
		各コマに おける 授業予定	対人援助におけるコミュニケーションの役割について考える。			
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】対人援助職に求められるコミュニケーション技術の基本の復習。(40分)	
		各コマに おける 授業予定	対人援助職に求められるコミュニケーション技術の基本を学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】これまでの講義内容をまとめる。(40分)	
		各コマに おける 授業予定	「受容(受け止める)」の大切さを理解する。			
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】「受容(受け止める)」の大切さの確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)	
		各コマに おける 授業予定	「受容(受け止める)」の実践例を学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	対象者の心にアプローチする必要がある場合に、どのような実践が望ましく、効果的であるかを学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】対象者の心にアプローチについて確認。(20分) 【事後学習】これまでの講義内容をまとめる。(40分)
		各コマにおける授業予定	事例検討を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指す。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の事例検討内容の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	事例検討を通して対応方法を考え、よりよい実践を目指す。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。 ② リハビリ職に求められるコミュニケーションとは何かを考え、理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】家族とのコミュニケーションのあり方について復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	家族とのコミュニケーションのあり方について、その必要性と効果について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】家族を支えるコミュニケーションについて復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	家族を支えるコミュニケーションにはどのようなものがあるか学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	① コミュニケーションの基本的知識を習得することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】これまでの講義内容をまとめる。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者に応じたコミュニケーションの基本技術を知り、効果的な実践を学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】対象者(認知症)とのコミュニケーションについて復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者とのコミュニケーション事例(認知症)を通して対応方法を考える。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者とのコミュニケーション8事例を通して対応方法を考える。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	③ ケア対象に応じたコミュニケーション技術を演習を通して理解し、実践できる力を身につけることができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】授業の復習。(40分)
		各コマにおける授業予定	さまざまな対象者とのコミュニケーション8事例を通して対応方法を考える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	④ 専門機関におけるコミュニケーションについて理解することができる。	配布資料	【事前学習】前回の授業の確認。(20分) 【事後学習】本講義内容をまとめる。(40分)
		各コマにおける授業予定	円滑な連携、質の高いチームケア実践のために必要なコミュニケーションのあり方と、実践力をイメージする。		